

熊本地域医療センターだより

院長 杉田裕樹

令和3年(2021年)7月発行

通算195号

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号

2021 8 月号

熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

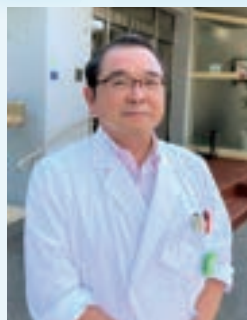
contents

顔が見える医師会病院に………	P 1
昇任のご挨拶………	P 2
画面に映るお母さんにタッチ………	P 2
嗜好調査について………	P 3
コロナ禍でのメンタルヘルスの現状………	P 3
新入職員挨拶………	P 4

「友達の輪～Relay トーク 第12弾」

顔が見える医師会病院に

豊田消化器外科医院 とよた のりあき
豊田 徳明



皆様こんにちは。熊本市医師会執行部でともに働いた宮本大典先生からバトンを渡されました豊田です。当院は1982年5月に父が江津湖の畔で開業し、熊本市医師会執行部の仕事が忙しくなった父の跡を継ぐ形で、1999年5月に

私が自院の院長となりました。

医師会病院との最初の関りは出動協力医で、熊本大学病院（第一外科）外来勤務の時からでした。深夜帯の当直が終わるとそのまま動物舎へ移動し実験ができ、距離も近く便利であると思ったものでした。

開業後は外科だけでなく内科、整形など多岐にわたって診療をしなければなりません。外科畑を歩いてきた自分は、他科にコンサルトで聞きかじったような知識こそあれ、臨床で使えるレベルではありませんでした。また基幹病院への紹介は診断が確定してからでないで紹介しておらず、なんとなく敷居が高い感じでした。そんな折、当時外科の田中洋先生（1外科の後輩）から「先生、送ってくれば診ますよ。必要と思ったら国立（現熊本医療センター）に送りますが、よかですか？」と声をかけてくれ気軽に紹介できました。我々開業医には、顔が見える医師会病院はありがたい存在です。先生方も勤務医名簿をご覧になっていただき、同門・同窓の先生などおられましたら声をかけてみられてはいかがでしょうか。

うか。

さて話は変わりますが、膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）をご存知でしょうか。膵臓内に発生する嚢胞性病変で内部に粘液を含み、がん化するリスクを持っています。当院は上下の内視鏡やエコーを中心とした検査を行っており、時折膵臓内の嚢胞性病変を認めることがあります。その際は元院長の廣田先生が膵臓のスペシャリストですので、紹介し Follow up をお願いしております。

ここで膵癌の話になりますが、非常に予後不良な疾患であることはご存知だと思います。しかし、医師会病院では病巣を触らずに切除する手術術式 no-touch pancreatotomy を開発し実践しておられます。（ここからはホームページからの引用ですが）2008年以降10年間で160例の膵癌手術を施行し、根治手術ができた場合（根治手術 R0 施行率 84.7%）の5年生存率41%と良好な成績を上げています。

先生方で膵臓疾患を疑う症例がございましたら紹介されてみてはいかがでしょうか。検査予約は専用回線がありますし、何科に紹介するか迷った場合は師長レベルを経験した“ベテラン”看護師への専用回線（森都医報に載っています）があります。おやっ？と思ったら電話されてみては如何でしょうか。

さて、次にバトンをすえふじ医院で循環器科をされている末藤久和先生にお渡しします。先生は東2部若手の会「江美里会」で酒を酌み交わす仲で、医師会忘年会の出し物の敏腕プロデューサーです。

昇任のご挨拶



内視鏡検査部長

はらおか かつき
原岡 克樹

この度、内視鏡検査部長に就任しました原岡です。

当センター内視鏡検査部門は、消化器内科医師、呼吸器内科医師、内視鏡検査技師、看護部、事務部で構成されております。消化管系、胆膵系、呼吸器系の内視鏡に関するルーチン検査から治療まで幅広く取り扱っており、緊急を要する症例にも24時間対応できる体制をとっております。昨年度（2020年）は、コロナ禍による受診控えや検査・治療件数制限の影響も危惧されましたが、医師会の先生方から様々な患

者様をご紹介戴いたこともあり、GF 2,696例（うち治療193例）、CF 1,904例（うち治療308例）、ERCP 361例（うち治療324例）、EUS 400例（うちFNA関連手技40例）、BF 181例（うち治療101例）を無事遂行できましたことを、この場を借りて深謝申し上げます。

今後も感染対策を充実させ、他業種間での連携を深め、より一層ハイレベルな内視鏡検査ならびに治療を提供できますよう邁進する所存です。今後も変わらぬご愛顧を宜しくお願い申し上げます。

画面に映るお母さんにタッチ

～会えない寂しさを少しでも… 当院オンライン面会の取り組みについて～

病院機能・患者サービス向上委員会 さとやま ひろこ
里山 弘子



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほとんどの病院が面会制限をしており、患者さんご家族にとって「入院したら会えない」とても辛い状況が続いています。

当院ではこれまで患者支援室が中心となり、50件以上のオンライン面会を行ってきました。

ある日のこと、画面の中にご家族の顔が見えると、それまで元気のなかった患者さんの顔にパッと笑顔が浮かびます。「ありがとう、大丈夫よ。心配かけてごめんね。あなたはちゃんとご飯食べてるの？」それはまさに母親の表情そのものです。傍らから看護師が「今日はお食事を半分くらい召し上がりました。リハビリも頑張っているらしいですよ。」と様子をお伝えすると、大きく顔の前でオッケーマーク。お互いの笑顔がお互いを元気づける瞬間に、付き添っている私たちも一緒に笑顔になれる嬉しい時間でした。

また別の日、首都圏にお住いの息子さんが画面越しに「お父さん、長いことお疲れさんだったね。ありがとう。」と声を掛けられました。患者さんは話すことは出来ませんでした。目じりに涙が滲み、奥様が「ちゃんと聞こえているみたいよ。」と息子さんに伝えられました。一番大切な時に会えない辛さを抱えながらも、「もう一度顔が見ら

れてよかった。」と話しかける息子さん。寄り添うスタッフは、「今はこれが精いっぱいのお手伝い」と心に言い聞かせていました。

このような場面に立ち会う度に、「今伝えたい思い」「今しか伝えられない言葉」を届けるためにオンライン面会の果たす役割は大きいと感じています。

患者さんご家族の面会以外にも、退院の近い患者さんが退院後の生活を支援する在宅チームと顔合わせするなど活用の場は広がっています。コロナの後の時代でも「あらたなる日常」の一つのスタイルとして、オンライン面会は有効なのではないでしょうか？

当院ではこれからもデジタル機器に不慣れな方にも負担なく面会していただける方法など、引き続き検討を重ねていきたいと思っております。



※オンライン面会の様子（許可を得て掲載しています）

嗜好調査について

栄養科

平素よりお世話になっております。当院の嗜好調査の取り組みについて報告します。

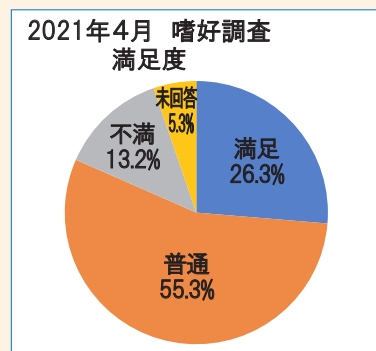
栄養科では年4回嗜好調査を実施しています。嗜好調査とは、患者様の食事に関する意見を聞くことで、献立作成・調理方法・食事提供方法などの見直しを行うための調査です。

2021年4月に行った嗜好調査では管理栄養士・栄養士・調理スタッフが患者様へ直接アンケートを配布し、自記入の依頼、または聞き取りを行う調査方法で実施しました。全体の満足度は、満足26.3%、普通55.3%、不満13.2%、未回答5.3%で、8割以上の方は普通以上と回答しています。そのなかで、味が薄いという意見が多数ありました。日本人の食塩摂取量の平均値は男性10.9g、女性9.3g（令和元年国民健康・栄養調査より）であり、目標量の男性7.5g未満、女性6.5g未満（日本人の食事摂取基準2020年版より）よりも多いのが現状です。治療のため制限がある方、健康増進のため制限がない方にも病院の食事を参考にしたいと思っただけのような味付けの工夫をしていきたいと思えます。

嗜好調査を継続して行うことで調査方法の課題も見つかりました。以前はアンケート用紙を食事

トレーにのせて配布・下膳時に回収しておりました。しかし、回収率が低かったため、今回のような調査方法で行うことで9割以上の回答を得ることができ、より多くの意見を聞くことができました。また、患者様と接する機会が少ない調理スタッフにとってその機会が得られたことは大変有意義でした。

アンケートでは、食事への要望のほかにも、食事への感謝のお言葉を多くいただきました。患者様が食事を楽しみにされている気持ちを改めて感じております。患者様からいただいた意見をもとに、更なる満足度の向上に努めていきたいと思えます。



コロナ禍でのメンタルヘルスの現状

ながた かずよ
臨床心理士・公認心理師 永田 和代



今年6月、新型コロナウイルスの影響が続く中、今年の4月末から5月にかけて内閣府が行った意識調査で「コロナ疲れ」を感じると答えた人が70%を超えたことが分かったとのニュースがありました。ちょうど当センターで行った4回目のストレスチェックアンケートの結果が出た時期でもあり、コロナによる心への影響はうちだけではないと感じたニュースでした。

このストレスチェックアンケートは、昨年度5月に当センターでコロナにより診療体制に大きな影響を受けた後に、職員のストレス状況を把握するために行い始めたものです。そのときの結果は、昨年度のセンター日よりでもお知らせしましたが、想定以上でした。強いストレス状態の職員が5割弱という結果に驚きましたが、災害ともいえる状況での急性期における正常な心因反応として理解しました。そこで心のケアチームでは、自然な回復を期待するとともに、不安を解消するための情報、管理者に対して部下へのケアに関する情報、

強い不安やストレスがある際に利用できる相談機関の情報提供などを行ってきました。またストレスに対するレジリエンス（心の回復力）を高めようとメンタルヘルスに関する情報発信のためのチーム通信も刊行しました。

そのような活動を続ける中、今年5月に4回目のアンケートを行いました。ちょうど変異株の影響から感染者は急増し、熊本県にも「まん延防止等重点措置」が適用されていた時期でもありましたが、残念ながら今回はこれまでのなかで最も心の疲弊が強いとの結果となりました。

それまでの心の疲弊が回復しない中、慢性的にストレスがかかり続け、職員の心も悲鳴を上げているのでしょうか。ストレスの原因であるコロナが終息することを願うばかりですが、なかなか先が見えないのも現状です。この困難な状況の中で対策を考えても制約のない生活に戻るという結果に結びつかない、がんばってもこの状況をコントロールできないことが、当センター職員だけでなく多くの人の「コロナ疲れ」に繋がっているのかもしれない。

新入職員挨拶



薬剤部

しゅとう あきこ
首藤 晶子

はじめまして。今年2月に薬剤部に入職しました首藤です。昨年6月までの約3年間、福岡の病院で勤務し、結婚を機に熊本へ引っ越して参りました。熊本は食べ物がおしくてとてもいい土地だと感じています。約半年勤務をしてきて、前職と大きく異なっている

と感じるのは、化学療法を行っている患者さんの多さです。前職では件数が少なく、また、ケモ担当がいたこともあり、ほとんど関わる機会がありませんでした。化学療法の副作用や患者さんとの接し方などは座学で学んできたつもりでしたが、いざ実践となると勝手が違うなと感じることが多く、まだまだ自身の知識と経験の不足を痛感する日々です。化学療法に限らず、適切な薬剤使用を通して患者さんに貢献していけるように精進していきたいと思っております。これからもよろしくお願いいたします。



薬剤部

ますだ りほ
益田 理帆

はじめまして。令和3年4月より入職しました薬剤師の益田理帆と申します。今年の3月に大学を卒業し、入職してあっという間に3ヶ月が経ちました。薬局の雰囲気には慣れてきたものの、まだまだわからないことが多く知識不足を痛感し焦り

や不安を感じることもありますが、先輩方に優しく教えていただきながら様々なことを学ばせて頂いています。現在は薬局内での業務を中心に行っています。これから先より多くの業務に携わっていき、薬剤師像に近づけるよう、日々の学習を怠らず経験を積んで成長していきたいと思っております。何かとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、一日も早くお役に立てるよう頑張ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



薬剤部

やまべ みさき
山部 美咲

はじめまして。令和3年4月より薬剤部に入職しました、山部美咲です。入職当初は不安でいっぱいでしたが、先輩方に丁寧に指導していただき、様々な業務を経験していく中で少しずつ出来ることが増えていき、嬉しく感じています。それ

と同時に、自分の知識不足や患者さんの命に関わる仕事をしているという責任の重さも日々感じています。病院薬剤師になることは私の中学時代からの夢でした。患者さんだけでなく、その家族の方々にも寄り添っていきける薬剤師を目指したいです。そのためにもっと多くの経験を積み、幅広い知識を身につけながら、薬剤師として日々成長していきたいと思っております。初心を忘れず頑張ります。今後とも何かとご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時/2021年9月27日(月) 19:00~20:00
形式/ハイブリット方式 オンライン参加 or 会場参加
オンライン参加: ZOOM 会場参加: 2階多目的ルーム

申し込み方法 (オンライン参加の場合) / kumamotochiiki@gmail.com
までメールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)

- ※8月の勉強会は開催いたしません。次回は9月開催予定となっております。
- ※会場参加を希望される方は、事前に申し込みください。人数制限によりご案内できない場合がございます。
- ※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

①症例報告

『ペメトレキセドによる強皮症様皮膚硬化の1例』
皮膚科 市原 麻子 医師

②特別講義

『肝切除術における技術の進歩と安全性の向上』
CC7: 医療の質と安全
外科 増田 稔郎 医師

熊本地域医療センター

- 医師へ直接紹介される方はこちら
☎096-363-3311 (代表)
- 何科に紹介するか迷っている場合はこちら
※ベテラン看護師が対応いたします!
(平日9:00~17:00) ☎096-372-0600
- 画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)
☎096-366-1323

編集後記

- Y 「友達の手～Relayトーク」は豊田消化器外科の豊田徳明先生に書いていただき、当院の得意分野の「臍癌」にも触れていただきました。ありがとうございました。閉塞性黄疸ばかりでなく、糖尿病コントロール悪化時などでも、ご紹介いただくと幸いです。
- K 梅雨が明け、真夏の入道雲と夕立の季節となりました。幼少期に自宅のマンションの避雷針に落雷があり、それからトラウマになっている長女。雷と稲光の時は、次男(中3)に抱きつく始末。そろそろ、弟以外にいないのかな～と思う母心です。
- H 先日、東京オリンピックが始まりました。色々思うところがありますが、大会に純粋な思い、努力を注ぎ込んでこられた人たちへのリスペクトだけは忘れず、離れたところから一生懸命応援します。